

平成 28 年度次世代企業間データ連携調査事業

「PO ファイナンスワーキング」活動結果報告書

Tranzax 株式会社

本報告書は、平成 28 年度次世代企業間データ連携調査事業「多摩地域活性化情報管理システム開発コンソーシアム」における、「PO ファイナンスワーキング（POF-WG）」の活動結果を取り纏めたものである。

## 1. POF-WG の活動目的

これまで中小企業においては、商取引における以下のような財務上の課題が存在した。

### ■ 資金繰りの問題

- ・大口受注をした際に原材料、部品などの調達資金が増加し、手元現金で賄えないケースの資金繰り問題。
- ・納品前の受注債権を担保とするスキームが存在しないことによる資金調達の問題。

一方で中小企業に融資を行う金融機関においても、受注段階での注文書（Purchase Order）に基づく融資には以下の様なリスク管理の問題があるため、現実的に融資を拡大していくことが困難な状況にある。

### ■ 融資リスク管理の問題

- ・融資の対象となる受発注の実在性および帰属性の確認が困難
- ・納品リスクへの対応が困難

POFは、こうした中小企業における資金繰りの問題および金融機関における融資リスク管理の問題を解決出来る新たな金融サービスとなる。

今回の実証実験においては、新たに EDI と POF とのデータ連携を実現し、EDI による確証性の高い注文情報に基づいた受発注時点での電子記録債権の発生と、これを担保とした融資および融資金回収の仕組みを検討した。

今回、POF-WG には 6 金融機関（4 銀行（三井住友信託銀行、足利銀行、北陸銀行、北洋銀行）と 2 信用金庫（西武信用金庫、多摩信用金庫））が参加し、実際に運用可能な POF の整備を行うことを目的として活動を進めた。

## 2. 実施計画

POF-WG では、POF 導入・実施に必要な以下の要件（※）の策定・確立を目標として活動を開始した。

- ※ 「業務フロー」、「業務ガイドライン」、「業務処理画面」、「標準契約書類」、「業務規程等」、「メッセージ仕様」（メッセージ仕様開発については、ITCA と連携して実施）

上記の要件を確実に整備するため、以下のとおり【POF 実証実験実施計画】を策定し、計画に基づいて対応を進めた。

【POファイナンス実証実験実施計画】		2017年											
		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
マイルストーン			← 4/26 キック オフ				7/末 中間 MTG					→ クロー ジ ング MTG	PJ 終了
タ ス ク	1 制度・スキームへの課題・対策整理			課題抽出 対策検討				課題抽出 対策検討					
	2 業務フロー・業務ガイドラインの策定			業務フロー共有・確認・確定				業務ガイドライン共有・確認・確定					
	3 業務処理画面の確定				業務処理画面設計			業務処理画面確定					
	4 標準契約書・業務規程の確定			業務規程の確定			標準契約書類検討				標準契約書類確定		
	5 メッセージ仕様の開発					ITC事務局と連携したメッセージ開発							

### 3. 計画実施結果の概要

実証実験実施計画における実施結果については、計画時に策定したタスクに対して、全て計画通りに作業を完了、本実証実験における目標を達成した。

また、マイルストーンに従った関係者への報告（キックオフ、中間、クロージング）を実施した。

計画における各タスクの実施状況については、以下の通りとなる。

#### (1) 制度・スキームへの課題（POF-WG 参加金融機関からの要望事項）

参加金融機関と、計画開始時、中間報告時（業務フロー、業務ガイドラインの報告）、最終報告時（業務照会画面、標準契約書類、業務規程等の報告）に多面的な検討を行い、要件に取りまとめた。

#### (2) 業務フロー・業務ガイドラインの策定

POF の業務については、「基本業務（正常系）」と「異例系業務」に分けて策定を行い、以下の取り纏めを完了している。

- ・業務ガイドライン（協会保証付き）
- ・業務ガイドライン（協会保証無し）
- ・業務フロー（正常系・異例系）

#### (3) 業務処理画面の策定

POF 利用者が参照・登録する「POF 業務処理画面」について、前記（2）業務フローに基づき業務画面（照会・登録）を整備し、各業務画面のレイアウトおよび機能の策定整備を完了した。

（実際の業務処理システム構築は、POF-WG とは別で、Tranzax 社が実施した。）

#### (4) 契約書・業務規程の確定

POF 業務開始に必要な、「業務規程・細則等」、「標準契約書類」についても策定を完了しており、電子債権記録機関の監督官庁である金融庁より POF 取扱開始の了解を得た。

(5)メッセージ仕様の開発

中小企業共通 EDIと POFS (※) の連携を実現するために、中小企業共通 EDI 仕様に基づいた POF メッセージ仕様の策定について、以下の通り検討を行った。

※POFS は、電子債権記録機関システムとデータ連携し POF を実現するためのシステム。

■ 中小企業共通 EDIと POFS の連携を実現するために必要な情報

- ・ POF 注文情報：POF 電子記録債権の発生を行う（担保となる電子記録債権の発生）
- ・ POF 注文回答情報：POF 電子記録債権の発生を行う（担保となる電子記録債権の発生）
- ・ POF 請求情報：POF 電子記録債権の抗弁切断を行う（納品・検収に基づく抗弁の切断）

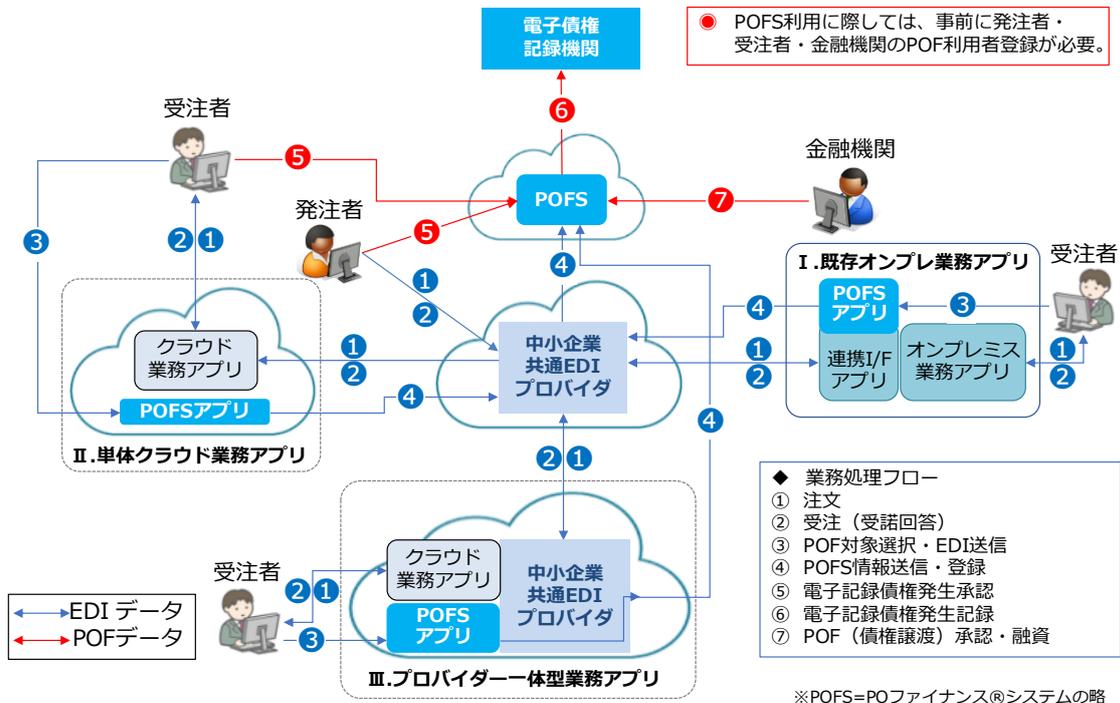
■ 中小企業共通 EDIと POFS との連携方法

中小企業 EDIと POFS が上記の POF 情報の連携を可能とするためには、POF データ用メッセージの策定が必要となる。※POF 対応区分コード（POF 注文区分および POF 請求区分）の追加また、業務アプリ側に以下の POF 連携機能の実装が必要となる。

- ・ 受注者が注文情報の中から、対象の POF 注文情報を選択し、中小企業 EDI 経由で POF へ送信する機能
- ・ 受注者が請求情報の中から、対象の POF 請求情報を選択し、中小企業 EDI 経由で POF へ送信する機能
- ・ POF 対応区分コードを識別する機能

■ 中小企業 EDIと POFS および POF 利用者との連携概要は下記の通り。

《共通 EDIと POFS との連携概要図》



#### 4. その他

今回、POF-WG では、「多摩地域活性化情報管理システム開発コンソーシアム」とは別に、実証実験期間中に武州工業との間で、共通 EDI と POFS とのデータ連携テストを行った。

##### (1) テスト範囲

テスト範囲は、3.(5)の《共通 EDI と POSF との連携概要図》における、「I. 既存オンプレ業務アプリ」と中小企業共通 EDI と POFS 間のデータ連携とし、テスト対象情報は「注文回答情報」を使用した。

##### (2) テスト結果

受注企業のオンプレ業務アプリより POF 対象の「注文回答情報」を選択、POFS へ問題無くデータ連携取込出来ることを確認出来た。

以上